

# 景観体験・思いの意味と空間的特徴に関する研究—東京・下北沢を対象として—

中内 和<sup>1</sup>・川崎 雅史<sup>2</sup>

<sup>1</sup>正会員 修士 (工学) 株式会社 三菱総合研究所 (〒100-8141 東京都千代田区永田町2-10-3)

E-mail:nanakauc@mri.co.jp

<sup>2</sup>正会員 博士 (工学) 京都大学大学院 工学研究科 (〒615-8540 京都府京都市西京区京都大学桂C1)

E-mail:Kawasaki.masashi.7s@kyoto-u.ac.jp

現在各地では、行政主導で様々な景観形成計画が策定されているが、これらは計画設計論への応用を見据えた規制誘導のフィジカルな指針である。それにくわえ景観は、景観に関わる主体がそれを維持するまちづくりへの意志と積極的な関与が必要である。そのために、地域の人々が日常接する景観体験およびそれによる能動的な思いの意味を深め、まちづくりへの共通認識に反映することが重要である。

本研究では下北沢を対象として、街歩き・WSを通じて抽出された景観体験・思い意味に関して、空間的特徴を把握した。その結果、①抽出された17の意味は、対象地固有の空間特性と結びついていること、②「自治の主体の在り方」を表す4つの意味には、住民の関与があること、③境界領域の要素が維持された経緯には、自治の主体の成立条件を内包することが示された。

**Key Words :** *meanings, thoughts of experience, actor, spatial properties, Shimokitazawa District*

## 1. はじめに

### (1) 研究の背景

現在各地では、行政主導のさまざまな風景づくり計画や景観形成計画が策定されている。世田谷区<sup>1</sup>では、「風景づくりの手引き」を策定して、世田谷らしい風景づくりに取り組んでいる。その手引きの中では、「地域の個性を活かし、協働でまちの魅力を高める世田谷の風景づくり」を理念に掲げ、主に、建築物等の風景づくりの基準の解説や、具体的な配慮の方法の例を示している。これら行政が展開している既存の景観計画は、地域の重要な景観資源と景観区域を設定し、自然や街並みとの調和を目指す建築の形態や色彩に関わる規制誘導のフィジカル (ハード) な指針を与えており、その目的は、計画・設計論への応用を見据えた「操作論的」な立場にあるといえよう。

それにくわえ景観は、そこに住まう人々など景観に関わる主体が、それを維持するまちづくりへの意志と積極的な活動や関与が必要であり、そこから生まれる真の地域力を必要としている。

そのための試みの一つとして、地域の人々が日常接する景観体験、およびそれにより発される能動的な思いの

意味をより引き出して、地域らしさのアイデンティティの共有化やまちづくりへの基盤認識として反映することが重要であると考えらる。

本研究では下北沢を対象として景観体験や思いの意味を引き出し、それがどのような空間的特徴により与えられ、維持されるか明らかにした。

### (2) 研究の目的・方法

本研究の目的は、景観体験・思いの意味を深く掘り下げて、地域との関わりが異なる人々において地域らしさの共通認識になりうるか明らかにし、それを維持するための構造を把握することである。

まず、景観体験・思いの意味を抽出するため個人単位の街歩き、主体単位のWSにより選好された場所・対象物に関して自由に議論してもらい、その意味を掘り下げた(3章)。ここでは、さまざまな選好性や景観体験・思いの意味が抽出されるよう、属性が異なる住民、商店街、下北沢大学(下北沢に愛着がある方の団体)、来街者から各3名(計12名)を対象とした<sup>4)</sup>。

次に、抽出された意味に関して、空間的特徴を要素および構成(関係する主体)、および変遷(それを巡る意識・活動の経緯)の切り口から考察した(4章)。

### (3) 研究の位置づけ

本研究は、地域・景観資源の研究と、景観認識の研究という2つの観点から位置づけられる。

前者には、地域資源を活用してエリア活性化を見据えた研究が数多くあり、北雄介<sup>3)</sup>「100人でつくる京都地図プロジェクト」では、地域資源や街歩きの様相記述を分析しているが、その意味までを対象としていない。

次いで後者の景観認識を意味論的に迫った研究には、萩下<sup>3)</sup>や玉井<sup>4)</sup>の研究がある。萩下は、被験者の撮影写真と記述から視覚像の景観意識の連関構造を抽出した。玉井は、人々が抱く「なつかしさ」が生じるきっかけや体験、感情を考察しており、その手法は参考になる。

これらの既往研究をふまえて、本研究ではアンケート調査、およびWSを主とする経営やマネジメントの手法ではなく、現地体験インタビュー調査と景観認識の枠組みの解釈を組み合わせ、主観的である景観の意味論的な深さを掘り下げる新たな手法を適用したことに新規性がある。

## 2. 対象地概要

### (1) 商店街の概要

下北沢は世田谷区に位置し、新宿や渋谷から電車で10分の距離にある近隣型商店街である。駅を中心に様相が異なる4商店街（しもきた商店街：来街者向けの古着・雑貨が揃う、一番街：住民に日用品を供給、南口商店街：来街者向けの飲食店が揃う、東会：本多劇場など文化施設や飲み屋が揃う）で構成される<sup>5)</sup>。

### (2) 地域社会の変遷

下北沢は元々の農地が、昭和初期の鉄道駅建設に伴う人口増加により、宅地、商業地と有機的に変遷した。そのため、現在でも商店街周辺には住宅地が広がっている。1980年代頃に、建物がビル化を伴いながら旧住民世代が賃貸業に転換したため、現在はテナント店舗が多い<sup>6)</sup>。これらテナント店舗は、主に来街者向けの店舗（洋服、雑貨、美容院等）であるため、住民はスーパー以外に商店街を利用していない。他にも、近年の歓楽店の増加など、商店街には多くの課題がある<sup>6)</sup>。

### (3) 都市空間の変容に計画の整理

対象地の都市再開発事業には、都市計画道路（補助54号線）や地区計画、小田急線地下化があり、これらによりヒューマンスケールな空間（路地や小規模建物）が失われることが懸念される。

そこで、ワークショップ、区民意見の公募などにより、小田急線地下化後の空き地の活用を住民参加型で検討し

ているが、跡地利用が主な論点となり、街全体を対象としていない、ゾーニング検討に留まっており商店街の具体的な空間整備までは議論されていない、行政が地域主導の提案を十分に汲み取り、計画に反映できていないなど課題が見受けられる<sup>6)</sup>。

## 3. 景観体験・思いの意味<sup>4)</sup>

### (1) 目的・分析方法

住民、商店街、下北沢大学、来街者の各3名計12名を対象に街歩きを行い、①好きな場所、②今残念な場所、③昔好きだった場所の選好性を把握した。

その結果をふまえた各主体のWSの議論により、景観体験・思いの意味を抽出して、それらの意味が個人や主体を越えて発現されるか確認した<sup>4)</sup>。

### (2) 景観認識の構造および意味の抽出

景観認識の構造および意味を抽出する方法は、選好された場所・対象物に対する思いや発言について、「視対象」を通じて捉えられた「事象（印象評価、他者の活動など）」により分類した。

その結果、景観に触れることを直接的なきっかけとした空間・対象に対する意味の類型a) 印象評価型、b) 知覚認識型、c) 意味付与型、直接的な空間・対象の意味を越えたメタレベルの類型であるd) メタ意味型の4つに分類され、それらに含まれる景観体験・思いの意味が17抽出された（図-1）。景観体験・思いの意味の定義は、本章末尾に一覧表でまとめた（表-1）。

本稿では、景観体験・思いの意味の具体例は紙面の都合上、割愛する。

#### a) 印象評価型

視対象そのものに捉える印象評価の類型である。具体的な意味には、①空間の非日常性、②洗礼されていないさ、③公的社交・私的交歓が抽出された。

#### b) 知覚認識型

視対象を通じて、「私」がいる空間や気配が知覚認識される類型である。具体的な意味には、①空間の広がり、②奥への誘い、③安全な棲息空間、④自然の気配、⑤時の気配・新陳代謝が抽出された。

#### c) 意味付加型

視対象に対して、関連する意味を付加・読取る類型である。具体的な意味には、①親和的な空間、②共同的な活動、③活動の営みの痕跡、④共同体の拠点、⑤まちの縁側が抽出された。

#### d) メタ意味型

視対象に対する直接的な意味の背景にある意識や作法などの「メタ」なレベルの意味を読取る類型である。具

体的な意味には①自然発生的な規範意識、②主体的な意志、③私の自由な選択、④当事者性の承認が抽出された。

### (3) 諸主体が捉える景観体験・思いの意味の考察

抽出された景観体験・思いの意味が、主体間で共通して発現されるか確認した(表-2)。

その結果、全被験者から発現された意味はなかったが、抽出された17の意味のうち11は、各主体で発現されたため、共通認識の基盤となる可能性が示唆された。

次に、空間の直接的な意味を表す3類型(印象評価、知覚認識、意味付与)では「共同的な活動」「共同体の拠点」は空間に日常接する主体(住民、商店街)で発現され、「洗練されていなさ」「まちの縁側」は外部として空間に接する主体(下北沢大学、来街者)で発現された。このように、空間への接し方の違いにより、発現されない意味があることが確認された。

最後にメタ意味型では、商店街の「私の自由な選択」

を除き各主体において4つの意味が全て発現された。

メタ意味型は、「私」がその空間にどのような意味を持たせるかを越え、地域に関わる主体がどのようにその場所に関わるか「主体」の在り方を表していると解釈できよう。自治の主体の成立条件について、ルソーは「みんなにとっての利益」を実現しようとする意志(一般意志)が生まれるためには、①どう生きていきたいかを自分で描ける、②自分と他者達との共通利益を議論できると指摘し、西も①個人が自由に発言できる、②各人の発言内容が聴かれ・受け止められる(存在の承認)と述べている<sup>9)</sup>。

本研究のメタ意味型において、上述の文献で指摘されている①は「私の自由な選択」「主体的な意志」、②は「自然発生的な規範意識」「当事者性の承認」により担保されており、主体として都市への参画やその程度を自由に選択しながら、メンバーシップの感覚を求めている視点は共通していると考察される。

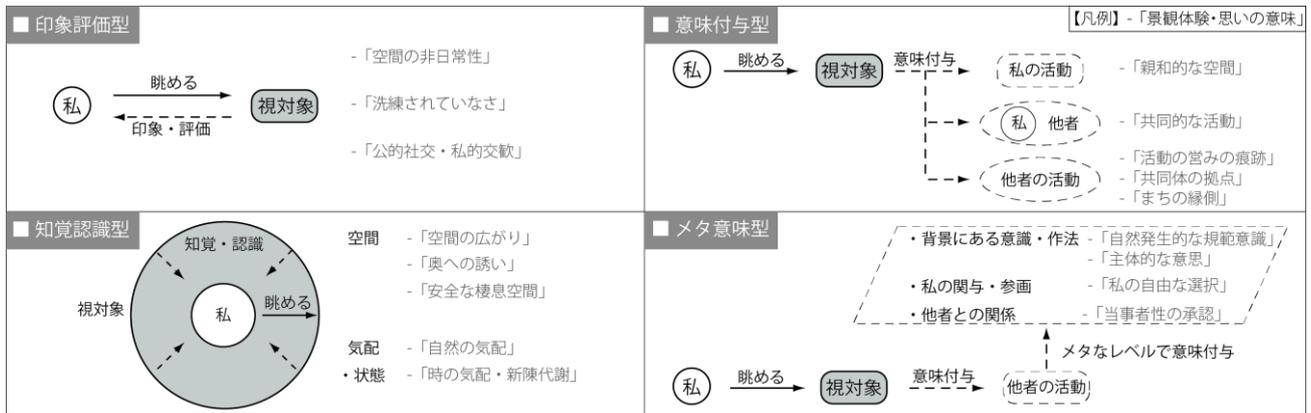


図-1 景観認識の構造(4類型, 17の意味)

表-1 景観体験・思いの意味の定義および発現した主体

構造	景観体験・思いの意味		住民	商店街	下北沢大学	来街者
印象評価	空間の非日常性	日常生活からかけ離れ、街並みと調和せず珍しく感じられる佇まい	○	△	○	○
	洗練されていなさ	安っぽさ・ダサさを感じられ万人が気軽に選択・参加できる佇まい			△	○
	公的社交・私的交歓	人々が交流などを楽しみ、さんざめきを感じる佇まい	△	△	△	○
知覚認識	空間の広がり	きっかけを通しいる空間や、視対象との間に広がりを感じる佇まい	△	△	△	○
	奥への誘い	領域に入り込むような奥性を感じ期待感や好奇心を誘発する佇まい		△		△
	安全な棲息空間	私が存在する空間において、安心感や安全性を感じられる佇まい	○	○	△	○
	自然の気配	私を超越する他者(季節の移ろい、自然など)が体感される佇まい	△	△	△	○
	時の気配・新陳代謝	時間の流れや変化を予感・体感できる佇まい	△	○	○	△
意味付与	親和的な空間	自身の生活に密接な関係を見出せる佇まい	○	○	○	△
	共同的な活動	私と他者が共有した活動や時間が想起される佇まい	○	○		
	活動の営みの痕跡	他者の生業や活動を読取れる佇まい	○	△	○	○
	共同体の拠点	地域の人々が抛り合う様子が読み取れる佇まい	△	○		
	まちの縁側	他者の活動が公共コミュニティに働き掛ける作法を連想する佇まい			△	○
メタ意味	自然発生的な規範意識	他者の活動の背景に、社会的ルールや他者への配慮を感じる佇まい	○	○	△	△
	主体的な意志	他者の活動を通じて、主体的意思・個性が感じられる佇まい	△	○	○	○
	私の自由な選択	風景に私を委ねる際に個人の裁量で自由に選択・参加できる佇まい	△		△	△
	当事者性の承認	他者の活動の背景にある、他者との承認協調関係を感じる佇まい	○	△	○	△

注：右欄では各主体で発現した人数が、○3名/△1~2名/(無印)なし

4. 景観体験・思いの意味と空間的特徴の関係

(1) 目的・分析方法

前章で抽出した景観認識の構造，および意味がどのような空間的特徴により与えられ，維持されているか明らかにした。まず，被験者により選好された全対象物を大分類，中分類にグルーピングした(表-2)。

次に，これらのグルーピングされた対象物ごとに意味との関係および空間的特徴を以下の視点から分析した。

(2) 対象物(要素)と意味の関係

意味と対象物の関係を整理すると(表-3)，【店舗】からは「空間の広がり」「奥への誘い」「自然の気配」「自然発生的な規範意識」を除いた意味が認識された。商店街の店舗からは認識されない「空間の広がり」「奥への誘い」は【住宅地】【路地や通り】【空間(広場利用される空き地等)】といった隣接する住宅や路地といった下北沢の空間特性と結びついている。

「自然の気配」は，【住宅地の庭木】【通りにある街路樹】【広場空間(ポケットパークの緑)】【自然(セットバックにある緑，桜の木)】【仮設的要素(店先のプランター)】など，仮設的要素だけでなく，住宅空間やポケットパーク等住宅地から発展した経緯にもとづく。「自然発生的な規範意識」は，【店舗】からは認識されておらず，【仮設的要素】【住民活動の花壇】【来街者

表-2 対象物の分類

大分類	中分類	具体的な対象物
店舗	商業店舗	店舗(よく利用，チェーン等)，銭湯，コインランドリー，歓楽店等
	サブカルチャー	映画館，劇場，ライブハウス等
	店舗の状態	小規模な店舗，およびその集積
	店構え	店構え(ファサード)
建物	建物関連	建物，違法建築，壁面，学生アパート
	建物の状態	スケールが大きな建物(ビル)
住宅地	住宅関連	住宅，住宅地，表札，車庫・倉庫
	庭木・緑	住宅の緑
街路	通り・路地	通り，路地
	沿道店舗	通りに並ぶ店舗
	街路関連	段差，舗装，三叉路，起伏，電柱等
空間	闊市	闊市
	広場空間	駐車場，ポケットパーク，境内等
	その他	線路，富士山，ビル群，突込み空間等
自然	緑，桜等	緑，桜の木，風，伐られた街路樹
要素	仮設的要素	あふれだし(商品・看板など)
	落書き	駐車場や壁の落書き
	花壇	花壇
	放置自転車	放置自転車
	喫煙所	店頭の喫煙スペース
	広告物	違法広告物，屋外広告物
	ポスター	イベントポスター
	その他	地藏，ごみ置場，客引き，タクシー
人	店主	店主
	劇場関連	役者や観客
	来街者	街路を歩く若者
	住民	住民，踏切を横断する学生

表-3 対象物(要素)と意味の関係

大分類	中分類	a) 印象評価型			b) 知覚認識型					c) 意味付与型				d) メタ意味型				
		空間の非日常性	洗練されていなさ	公的社交・私的交歓	空間の広がり	奥への誘い	安全な棲息空間	自然の気配	時の気配・新陳代謝	親和的な空間	共同的活動	活動の営みの痕跡	共同体の拠点	まちの縁側	自然発生的な規範意識	主体的な意志	私の自由な選択	当事者性の承認
店舗	商業店舗	○	○	○			○		○	○	○	○	○			○	○	○
	サブカルチャー	○	○						○	○								○
	店舗の状態			○				○	○	○	○						○	○
	店構え		○						○	○	○						○	○
建物	建物関連	○	○				○	○	○	○	○			○				
	建物の状態	○															○	
住宅地	住宅関連	○	○			○	○	○	○			○						
	庭木・緑					○	○	○	○	○	○							
街路	通り・路地	○		○		○	○	○	○	○	○		○			○		
	沿道店舗							○	○									○
	街路関連						○	○										
空間	闊市	○						○	○			○					○	○
	広場空間	○		○		○	○	○	○	○	○				○		○	○
	その他	○				○	○			○	○							
自然	緑，桜等		○	○		○	○	○	○	○								
要素	仮設的要素	○	○	○				○	○	○	○		○		○	○		○
	落書き	○	○					○	○						○			○
	花壇										○				○			
	放置自転車							○							○			
	喫煙スペース	○		○				○							○			○
	広告物	○						○						○				○
	ポスター	○	○	○												○	○	○
その他	○						○											
人	店主	○																○
	劇場関連	○	○	○								○						○
	来街者	○	○	○												○	○	○
	住民											○						

による放置自転車】【店先の喫煙者】【広告物】など動的な要素から認識されている。

次に、「自治の主体」の在り方を表していると考察したd)メタ意味型の残りの3つの意味と対象物の関係において、「主体的な意思」は【店舗（店員の人の、小規模店舗の集積）】【建物のスケール】【路地（密集する個人店舗）】【闇市】【要素】【人（店主、好みの服装で歩く若者）】など、人や活動の痕跡などを体感することにより認識されている。「私の自由な選択」は、【店舗（馴染みがある）】【広場空間（一息つける広場）】【イベントポスター（告知されるイベントに自由に参加できる）】【来街者（好みの服装で歩ける）】により認識されている。「当事者性の承認」は、【店舗（調和するサブカルチャーの店舗等）】【沿道店舗（店舗は入替わっても持続する）】【空間（様々な世代の人間関係を蓄積する闇市等）】【要素（仮設的要素、落書き）】【人（店主の人の、嗜好が感じられる、路上交流する役者と観客、好みの服装で歩く若者を街が受け入れる等）】により認識されている。

### (3) 関係する主体と意味の関係

d)メタ意味型に分類される4つの意味に関して、対象物ごとに関係する主体を整理した(表-4)。

対象物が存在する場所をみると、【店舗】【建物】【街路】【街路（沿道店舗）】【空間】は私有空間、【要素】【人】は公共空間（境界領域）に分けられる。敷地内にある対象物では、主に対象物・活動の直接的な主体は店舗関係者、もしくは大家・建物所有者であり、主にこの2主体間の関係にもとづく。

一方、敷地外にある対象物は、直接的な主体が店主、住民だけでなく、外部の来街者、下北沢大学なども含む

ほか、対象物およびそれに関する行為の背景には、間接的に多くの主体の関与がある。

次に、自治の主体となるための成立条件を表すd)メタ意味型の4つの意味が読取られる対象物には、直接的・間接的に住民の関与がある。実際、町内会のWSでは、「（下北沢らしさは）街の景観には一体感がなく自由な空気感がある。ただし、商店街の事であっても、環境をつくっているのは住民という認識」と住民が商店街の基盤を担うと町内会は自覚している<sup>3)</sup>。

### (4) 空間的特徴の経緯と意味の関係

このような空間的特徴が維持された経緯を、関係主体が多い境界領域の【要素】を例として分析する。

#### a) 先行研究の整理<sup>9)</sup>

筆者の先行研究では、仮設的要素をはじめとした街路空間の利用を巡る“地域的ルール”の形成の実態を、街路空間の管理・利用等に関わる諸主体へのヒアリング調査により把握した。街路空間に係る意識や活動の発信者や主体の関係性を構造化した結果、地域的ルールの構造は、①予め定まった公共性の判断が支配せず、店主など各主体が自律的に協働している、②公共性の発受信・交換の場が様々な形で担保されている、③地域的ルールが社会状況等の変化に応じて改善・更新できると考察された。

#### b) 意味と空間的特徴の構造に関する考察

仮設的要素に関して、景観体験・思いの意味と空間的特徴の変遷をみると、地域的ルールの構造①③は、「自然発生的な規範意識」「主体的な意思」「私の自由な選択」、②は「当事者性の承認」により担保されており、「自治およびその主体の成立条件」は、地域的ルールの構造からも読取られる。

表-4 メタ意味型の4つの意味に関する対象物および関係する主体

大分類	対象物 中分類	意味(d:メタ意味型)				関係主体(◎:対象物・活動の直接的な主体 / ○:対象物・活動に間接的に関わる主体)											
		自然発生的な規範意識	主体的な意志	私の自由な選択	当事者性の承認	外部			店舗関係			住民関係			管理者関係		
						来街者	下北沢大学	店主(地域内)	店主(地域外)	商店街	大家・建物所有者	近隣住民	町内会	地主	世田谷区	警察	
店舗	商業店舗		○	○	○			◎	◎	○	○						
	サブカルチャー				○			◎	◎	○	○						
	店舗の状態		○	○	○			◎	◎	○	◎						
	店構え		○		○			◎		○	○						
建物	建物関連	○									◎						
	建物の状態		○								◎						
街路	通り・路地		○					◎		○	○						
	沿道店舗				○			◎		○	○						
空間	闇市		○		○	○	○	◎				○		◎			
	広場空間	○		○	○	○	○				◎			◎			
要素	仮設的要素	○	○		○	○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
	落書き	○	○		○	◎				○	○	○	○	○	○	○	○
	花壇	○									◎	◎		○	○	○	○
	放置自転車	○				◎						○	○		○	○	○
	喫煙スペース	○			○	◎				○	○	○	○		○	○	○
	広告物	○			○			◎	◎	○	○	○	○		○	○	○
人	店主		○		○			◎									
	劇場関連				○	◎	◎	◎	◎	○				○		○	○
	来街者		○	○	○	◎	◎			○			○				

## 6. まとめ

本研究では以下の成果が得られた。

3章では、街歩きおよびWSにより景観体験・思いの意味を抽出した結果、a) 印象評価型、b) 知覚認識型、c) 意味付加型、d) メタ意味型に分類される17の意味が抽出された。この中で、d) メタ意味型は主体を越えたまちづくりの共通認識になることに加え、個人の自由とコミュニティに対するメンバーシップの感覚を求める自治の主体の在り方に示唆を与え得ると筆者は考える。

4章では、景観体験・思いの意味と空間的特徴を分析した。対象物との関係では、商店街に加え、近接する住宅地や路地など下北沢固有の空間特性と結びついている。主体との関係では、d) メタ意味型の4つの意味が読取られる対象物は、敷地外にある【要素】【人】であり、これらには多くの主体の関与があるほか、これらには、直接的・間接的に住民の関与があることが示された。空間的特徴の経緯では、境界領域の【要素】に関して、景観を享受・形成する側からも「自治およびその主体の成立条件」が解釈された。

### 補注

- [1] 本研究は少人数の自由な会話を深く掘り下げる研究方法やその意義の都合上、被験者が少人数となったが、得られた結果を可能な限り、詳細に分析することを重視した。
- [2] 住宅地図（1962～2010）の建物の変遷から把握した。
- [3] 2015年4月26日、住民（町内会）を対象としたワークショップにおける、2丁目協和会副理事長Tさんの発言。
- [4] 本章の内容は、土木計画学D1論文集に投稿中の範囲であるため、要点のみの記載とした。
- [5] 街歩きおよびWSの実施日、被験者は注表-1参照。

### 参考文献

- 1) 世田谷区：風景作りの手引き—建設行為等における計画編一，世田谷区，2015

- 2) 北雄介，宮部真衣，荒牧英治：位置情報つき自由記述データを用いた都市の予想記述に関する考察一，日本建築学会近畿支部研究発表会，2014
- 3) 萩下敬雄，山田圭二郎，中村良夫：景観認識における意識の連関と生成に関する基礎的研究，土木計画学会研究論文集（no.17），pp.541-546，2000.9
- 4) 玉井瑛子：なつかしさの想起による空間・体験・感情の質に関する研究，京都大学修士論文，2014
- 5) 日本大学史学研究室 佐々木隆爾調査団：下北沢商店街の歴史・現状と課題，こうち書房，2001，p.16
- 6) 高橋ユリカ，小林正美：シモキタらしさのDNA，株式会社エクスマレッジ，pp.114-164，2015.6
- 7) 中内和，山田圭二郎，高橋利之，川崎雅史：街歩きにおける景観体験・思いの意味に関する研究
- 8) 中村良夫：風景とローカルガバナンス—春の小川はなぜ失われたのか—，早稲田大学出版部，pp.171-182，2014.6
- 9) 中内和，山田圭二郎，川崎雅史：下北沢の商業系街路空間を巡る地域的ルール形成に関する研究，土木学会論文集 D1(Vol.71)，pp.116-132，2015.11

注表-1 対象者と調査実施日

年・性	居住	属性・特記事項
住民（町内会）：2015/4/26(日)11:00～13:45		
60代女	在住	数十年前，嫁いだことをきっかけに在住
60代女	在住	数十年前，嫁いだことをきっかけに在住
60代男	在住	幼少期から今まで在住(不動産業)
商店街：2015/6/13(土)16:00～17:30		
40代男	在住	商店街副理事。幼少期より在住(不動産業)
40代男	在住	商店街理事。幼少期より来街。
40代男	在住	商店街理事。幼少期より在住。
下北沢大学：2015/7/5(日)11:30～12:15		
30代男	地域外	大学まで在住。5年前から参加(会社員)
30代女	在住	大学から在住。3年前から参加(不動産業)
30代女	地域外	学生時代より来街。5年前から参加(会社員)
来街者：2015/4/25(土)16:00～21:15		
20代男	地域外	今までにきたことはない(会社員)
20代男	地域外	今までにきたことはない(会社員)
20代男	地域外	今までにきたことはない(会社員)

(2017.9.4 受付)

## MEANINGS, THOUGHTS AND SPATIAL PROPERTIES OF EXPERIENCES OF TOWNSCAPE: A STUDY OF THE SHIMOKITAZAWA DISTRICT

Nagomu NAKAUCHI and Masashi KAWASAKI

Landscape formation plans have been a common government-led practice in various municipalities that apply theories of urban planning and design to the regulations and recommendations of the physical environment. On top of that a mindset and proactive engagement is required of the landscape-related actors towards an urbanism or *machizukuri* that sustains the landscape. As such, it is imperative to have a deeper understanding of the urban experiences of residents in their everyday lives as well as the self-conscious and personal meanings attached to the landscape, and incorporate the shared perception in the *machizukuri*. Walking around and Workshops were conducted with 12 participants of different sociodemographic characteristics in the study in the Shimokitazawa district, and the focus was on the preferences of place and object, and the meanings and thoughts of urban experiences of townscape. Further discussions and analyses led to the identification of a typology of 17 kinds of meanings and spatial properties related to that, which fall under 3 categories: ① meanings related to originally spatial properties in study area ② meanings concerning identity, e.g., the sense of belonging to a community, involve residents ③ circumstances in which elements in the boundary area were sustained included the establishment condition of the subject of autonomy.